

氏名	性別 男・女	年齢 歳
診断名 □大腿骨頸部骨折□大腿骨転子部骨折	受傷日:平成 年 月 日	手術日:平成 年 月 日
□その他()	手術: 有・無	術式:□人工骨頭置換術 □親血的整復固定術 □その他()

急性期病院

回復期リハビリ病院

維持期
(自宅・施設)

経過	入院から手術まで	手術日	術後1～7日目	7から14日目	退院(術後21日目頃)	転帰	入院時	退院時(3ヶ月)	転帰	平成 年 月 日
日付	平成 年 月 日	平成 年 月 日			平成 年 月 日	活動度(mRS)				
入院日数						0 I II III IV V				
目標と最終結果	診断の確定	手術前後の全身管理	全身状態の安定	全身状態の安定	全身状態の安定		日常生活活動拡大のリハビリ	日常生活動作の獲得		
	手術説明の日程調整		リハビリの進行	リハビリの進行	自宅生活を可能とする状態まで改善・回復	⇒□ 自宅退院	二次的合併症の予防	日常生活能力が自宅生活を可能とする状態まで改善・回復	⇒□ 自宅退院	自宅生活の継続
	退院・転院支援のMSWの介入			退院・転院にむけての方針決定	リハビリによって能力向上が期待でき自宅復帰へ向けたリハビリ・家庭復帰へ意欲がある。	⇒□ 回復期リハビリ病院	ケアプランの作成・社会的資源の手配	ケアプランの作成、住宅改造等の完了		再転倒予防
					リハビリ・介護サービスを組み合わせても自宅生活が困難	⇒□ 介護施設		リハビリ・介護サービスを組み合わせても自宅生活が困難	⇒□ 介護施設	施設内生活の維持
					継続した医療行為が必要	⇒□ 療養型病院		継続した医療行為が必要	⇒□ 療養型病院	再転倒予防機能維持
手術をしない場合、整形外科的治療は特にありません。 現在の状況から考えられる機能を考慮して、リハビリを行い、入院後3週間以内で、退院または転院となります。										
治療／薬剤	常用薬の確認 手術のための中止薬の確認	手術	深部静脈血栓予防薬(ワーファリン)の投与開始 中止薬の再開	深部静脈血栓予防薬(ワーファリン)の投与	深部静脈血栓予防薬(ワーファリン)が終了		内服薬			内服薬
	服薬指導 点滴	点滴	服薬指導 点滴	服薬指導	服薬指導		服薬指導			服薬指導
検査	レントゲン 血液検査 心電図・肺機能検査 必要に応じてMRI・CTなど	レントゲン 血液検査	レントゲン 血液検査	レントゲン 血液検査						必要に応じて諸検査
リハビリ	リハビリ計画 リハビリ開始		リハビリ再開	日常生活活動拡大に向けたリハビリ			日常生活活動拡大に向けたリハビリ			維持的リハビリ
清潔	清拭		清拭	清拭・抜糸後シャワー入浴介助	入浴訓練		シャワー・入浴介助・入浴訓練	シャワー・入浴の自立		獲得した機能での生活
排泄	ベッド上 または車椅子移動可能ならトイレ誘導	ベッド上	ベッド上 または車椅子移動可能ならトイレ誘導	ベッド上 または移動可能ならトイレ誘導	ベッド上または、トイレ誘導 排泄訓練		ベッド上、またはトイレ誘導・排泄訓練	排泄の自立		
食事	飲水・食事	絶食	状態に合わせた食事形態				状態にあわせた食事形態			
説明指導	診断・治療方針説明 MSWの介入	手術内容の説明	MSW等との今後の方向性の検討	退院・転院後のリハビリ・服薬・栄養に関する説明			退院・転院後のリハビリ・服薬・栄養に関する説明			説明

説明を行った者

説明を行った者

modified Rankin Scale(mRS)
Grade 0 障害が存在しない
Grade I 明らかな障害が存在しない。通常の動作を補助なしでできる。
Grade II 軽度の困難。いくつかの日常生活動作を行うことができない。
しかし多くの介助がなくても自分の身の回りのことができる。
Grade III 中等度の困難。ある程度の介助を必要とするが助けなしでできる。
Grade IV 高度の困難。介助なしで歩いたり身体の一部を好きなように動かすことができない。
Grade V 重度困難。ベッド臥床。失禁。持続的な看護と監視が必要。

説明を行った者

説明を行った者

説明が行われた日

説明が行われた日

説明が行われた日

説明が行われた日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

患者サイン

患者サイン

患者サイン

患者サイン